オープニングセミナー 1



股関節障害に対する評価
―症例から考える構造と機能のつながり―

我汝会えにわ病院リハビリテーション科
家入 章

本セミナーでは，股関節障害に対する評価について，人工股関節全置換術（total hip arthroplasty；THA）後の歩容不良をきっかけに，何を観察し，どのように考えるかを紹介します．股関節疾患では，疼痛，可動域制限，筋力低下など，股関節局所の問題に目が向きやすい一方で，実際の症状や動作能力には，脊柱・骨盤帯に加え，膝関節や足部を含めた下肢全体のアライメントや可動性も関係します．そのため，股関節障害の評価では，局所所見だけで判断せず，脊柱・骨盤帯から下肢までの関係性を踏まえて考えることが重要です．

当日は，看護師から THA 後患者の歩容不良について相談を受けた事例を手掛かりに，股関節障害に対する評価の視点を整理します．一見すると股関節伸展制限や脚長差が問題にみえる場合でも，股関節局所の所見だけでは説明しきれないことがあります．そのため，観察された歩容や姿勢をそのまま問題点と決めつけるのではなく，画像所見や手術情報を踏まえた構造的な前提条件と，介入によって変化しうる機能的な問題を分けて考える必要があります．本セミナーでは，評価の捉え方，仮説の立て方，変化の確認方法について考えます．

また，時間の許す範囲で，臼蓋形成不全を中心とした保存療法の考え方にも触れる予定です．THA 後の評価と保存療法は異なるテーマにみえますが，画像所見や治療経過を前提にしながら，症状や動作が変化する条件を探し，主訴や困難動作の変化を確認する点では共通しています．本セミナーが，股関節局所の評価にとどまらず，症例の動作や生活背景を含めて臨床的に考えるきっかけとなれば幸いです．

略歴

【学歴・職歴】
2007 年　北海道千歳リハビリテーション学院　卒業
　　我汝会えにわ病院リハビリテーション科　入職
2008 年　北海道千歳リハビリテーション学院　臨床研修専攻科　卒業
2012 年　弘前大学大学院　博士前期課程修了　修士（保健学）
2014 年　弘前大学大学院　博士後期課程早期修了　博士（保健学）

【主な論文】
1）Ieiri, A., et al. ：What Predicts 36-Item Health Survey Version 2 After Total Hip Arthroplasty. Arch Phys Med Rehabil, 94：902-909, 2013.
2）Ieiri, A., et al. ：Reliability of measurements of hip abduction strength obtained with a hand-held dynamometer. Physiother Theory Pract, 31（2）：146-152, 2015.
3）家入章，他：変形性股関節症に対する徒手療法の効果-システマティックレビュー-．徒手理学療法，23（1）：67-74, 2023.
4）家入章：変形性股関節症に対する理学療法-THA 術前外来．理学療法ジャーナル 60（2）：171-177, 2026.